

公益財団法人水島地域環境再生財団
平成 30 (2018) 年度 事業報告書

1. 総括

今年度は、2018 年 3 月に立ち上げた「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」の具体的な取組を進め、モデルツアー（2 回）の開催や、成果報告のシンポジウムなどを開催した。実績を積み重ねることにより、コンソーシアムのメンバーや、地元高校などの関係者との連携を深めることができた。

7 月に発生した西日本豪雨災害によって、一部の事業で予定を延期するなどの影響があった。本災害に対しては、水島への避難者の支援や、復興に向けての講演会の開催などの取り組みを行った。これらのことを通じ、改めて防災・減災について、地域と連携して取り組むことの重要性を認識することとなった。

こうした反面、財政面では、大口寄附を除いた収支では、委託事業や自主事業において、想定していた事業を獲得できなかったことなどにより、事業活動収入が当初目標に達しなかったため、引き続き、2018 年度も前年度を上回る大幅な赤字となった。賛助会員については新規会員の働きかけが不足し、会費収入の目標に達しなかった。支出の精査・削減等にも取り組んだが、みなと公害患者会（名古屋）から 50,000,000 円の大口の寄附があり、収支では結果的に黒字となった。

2. 公益目的事業 1（公 1）

2018 年度事業計画では、「大気汚染公害被害者の実相に対峙しつつ環境再生に取り組んだ経験を活かした活動に取り組む。その際、限られた体制の中で、従来から行っている事業を精査しながら取り組みを進める」としたが、不十分な取組となった。

倉敷市水島地域の大气汚染公害の経験を活かし、国内外で公害のない、よりよい地域を創造することをめざした調査研究、普及啓発活動支援活動の実施

- (1) 公害地域の再生・地域づくりに関わる調査研究
- (2) 公害経験や公害地域再生・地域づくりに関わる情報交流事業
- (3) 環境学習・環境保健活動等支援事業、その他の事業

(1) 公害地域の再生・地域づくりに関わる調査研究及び活動

①岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度評価分析と活用事業

公害のない、より良い地域環境の創造に資することを目指して、岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の評価・分析事業に取り組んだ。本事業を通じ、CASA（地球環境市民会議）と連携し、岡山県におけるカーボンバジェット（炭素予算）の分析や、温暖化防止対策の検討を進め、今後につながる取り組みができた。

事業内容	「岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」の評価・分析を行った。 （政務調査費事業（日本共産党岡山県議団））各事業者から岡山県へ提出されたデータを基に、分析・評価を行い、温暖化防止に向けた提言を取りまとめ、報告書を作成した。 今年度は、地球環境市民会議（CASA）と共催で、温暖化防止に向けた勉強会及びシンポジウムを開催した。 6/22 森脇県議と打ち合わせ 7/29 温暖化防止勉強会 10/8 CASA 研究会に参加 2019/1/27 シンポジウム「岡山県の脱炭素社会を展望する
------	---

	—カーボンバジェットで地域活性化— 開催 (CASA と共催)
3/29	「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の改善にむけた提言 (2018 年度版)」提出

②海ごみの発生源対策としての、内陸河川での回収処理体制確立に向けた基礎調査

瀬戸内海の環境再生を目指した取り組みでは、「美しい海を未来につなぐ 瀬戸内海海ごみフォーラム in おかやま」(主催：岡山県)を開催し、瀬戸内沿岸各県での現状と取り組みの情報共有を行った。

瀬戸内沿岸における海ごみ対策の動きを把握することができた。取り組みとしては、単発のイベントに終わっており、海ごみ減量化に向けた次の展開を考える必要がある。

事業内容	「海と川と山、環境と文化をつなぐ美化意識啓発業務 (海ごみフォーラム)」は、11 月 23 日 (祝) フォーラムを開催した。岡山県内外から 79 名の参加があり、海ごみ問題の現状と対策について情報を共有することができた。 6/1、8/24 岡山県循環型社会推進課と打ち合わせ
-------------	---

③資料保存・整理・活用・資料館づくり

資料保存では、関連諸組織と連携しながら、資料保存・活用を目指した取り組みを進めた。公害裁判資料等を基に、展示物を作成し、倉敷市環境学習センターでの展示や、視察研修の受け入れで活用した。

フォーラムに参加することで、公害経験を SDG s につながる学びとして、価値づけをすることができた。今後、倉敷でも生かすことで、水島の公害資料の保存・活用の機運を高めることにつなげていきたい。

事業内容	昨年度に引き続き、水島における公害関係の資料の整理を進めた。旧患者会事務所 (春日町) にある患者さん関係の資料の管理を倉敷医療生協別館に移した。 東京で開催された「第 6 回公害資料館フォーラム」には、実行委員会に参加し、フォーラムの成功に貢献した。企業分科会の運営を担当し、企業との関係性の構築などについて意見交流を行った。 ・公害資料館フォーラム実行委員会に参加 (6/11、3/5) 12/15-16 公害資料館フォーラム in 東京に参加
-------------	---

④水島地域のまちづくりと関連させた八間川調査

八間川調査、海辺のエコしらべなどに取り組んだ。

八間川調査等によって水島地域の環境に関するデータを蓄積することができた。夢&環境支援宮崎記念基金助成事業では、それらを取りまとめ、倉敷市の生物多様性地域戦略への活用を呼び掛けた。

事業内容	倉敷市環境学習センターとの連携事業として八間川調査、海辺のエコしらべを実施したが、参加者等基幹的情報は全て倉敷市のものとなったにも関わらず、会場使用料以外の費用は全て財団負担で変わらず、連携事業の体をなしていないので早急に (2019 年度から) 改善する。 インタープリター養成講座は、2018 年度は実施しなかったが、2019 年度は経費の内訳を見直して実施予定。 ・第 63 回八間川調査 (6/17) 21 名参加 ・海辺のエコしらべ (7/25) 30 名参加 ・第 64 回八間川調査 (8/25) 15 名参加 夢&環境支援宮崎記念基金助成事業 ・水島地域の水生生物に関する文献調査 (10~11 月) ・「自然豊かな水島を目指して～市民参加による生きものしらべ (水辺編)～」報告書及び「水島
-------------	---

	<p>地域周辺水辺の生きものマップ」を作成し、倉敷市に提出した。(3/29)</p> <p>調査研究活動等で得られた知見、各種行政の審議会・委員会等の場で意見や提言をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国環境パートナーシップオフィス（EPO ちゅうごく）運営委員会（5/24、3/6） ・岡山県河川整備検討委員会（5/31） ・岡山県環境学習協働推進広場（おかやまかんきょうひろば）運営委員会 ・岡山県環境マネジメントシステム外部評価委員会（8/28、2/8） ・岡山県環境審議会（9/3） ・倉敷市生物多様性審議会（2/13）
--	---

（２）公害経験や公害地域の再生・地域づくりに関わる情報交流事業

①公害地域再生・地域づくりに関わる市民活動団体等への運営支援・連携

以下の事業は、みずしま財団として、様々な団体と連携することで、市民活動を盛り上げることに貢献したが、人件費、通信運搬費、消耗品費、光熱水道費、賃借料、リース料、委託費等全てが財団負担となっており、エネルギーを相当消耗するものであるから、2018年度事業計画では、これらを精査しながら進めるとしたが、これができなかった。

事業内容	<p>倉敷・総社温暖化対策協議会などの市民団体・グループの組織を支援し、環境保全を目的とした市民活動のレベルアップを目指した取組みを進めた。</p> <p>倉敷市の「生物多様性地域戦略」の効果的な取組に資するため、水島地域の水生生物を対象に行政や市民団体による過去の調査に関する文献調査を行った（夢&環境支援宮崎記念基金助成事業）。報告書及び水辺の生きものマップを作成し、倉敷市に提出した。</p> <p>地域の団体の支援では、水島おかみさん会から事務委託を受けて水島夢 Koi・Koi！実行委員会、水島お雛めぐり実行委員会などの開催支援をした。</p> <p>STOP 温暖化くらしき実行委員会 実行委員会に参加、運営に協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・STOP 温暖化くらしき実行委員会（4/25、6/27） <p>瀬戸内の環境を守る連絡会 瀬戸内地域の環境問題に取り組む市民団体の連絡組織として設立された連絡会の事務局を担当し、総行動における閉鎖性海域対策室との交渉を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第43回公害被害者総行動デー 閉鎖性海域対策室交渉（6/6） <p>おかやま環境教育ミーティング（アスエコ） 実行委員会に参加、当日は磯部理事が、分科会での話題提供、進行を担当するなど開催に協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回 おかやま環境教育ミーティング（8/9） ・おかやま環境教育ミーティング実行委員会（4/18、5/30、7/25、9/12） <p>おかやま環境ネットワーク 塩飽が、おかやま環境ネットワークの理事として、組織運営に携わった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかやま環境ネットワーク理事会（5/12） <p>倉敷・総社温暖化対策協議会 交通システムグループを担当した。</p>
-------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷・総社温暖化対策協議会 総会に参加 (5/20) <p>NPO 法人かけはし</p> <p>NPO 法人かけはしが実施する、地域での暮らしの中での困りごとに関するアンケート調査及びとりまとめの報告会の開催に協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループ (8/1、9/13、10/25、12/18、3/2) ・報告会 (3/18) <p>水島おかみさん会：</p> <p>みずしま夢 Koi・Koi！実行委員会に協力し、準備を進めたが、西日本豪雨の影響で今年度は、水島港まつりが中止となった。水島お雛めぐり実行委員会に協力し、実行委員会の事務作業等を行うと同時に、期間中はスタンプラリーに協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水島港まつり 実行委員会 ・水島お雛めぐり実行委員会 ・水島お雛めぐり (2/23～3/10) <p>(一社) 高梁川流域学校</p> <p>高梁川流域における学びを通じた地域づくりの取り組みを連携して行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高梁川ミーティング (2/23) <p>イベント等への出展、展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市環境フェスティバル ビーチグラスアクセサリー体験 (6/2) ・第5回おかやま環境教育ミーティング (8/9)
--	--

②ESD、SDGsの実現に向けた普及・啓発事業

国・地方自治体とともに ESD、SDGs の普及啓発事業を当財団の実施課題として検討を進める。

環境省同時解決事業を通じて、水島地域が、SDGsにつながる学びのできる地域としての価値づけをすることができた。岡山大学に加えて、地元の倉敷古城池高校などと連携を進めることで、若者の参加を進めることができた。大学生・院生の研究に関する相談を受ける機会が増えてきた。

地域ESD推進拠点として、地域からの相談対応の取り組みを進めることで、地域づくりのコンサルタントとしての意味合いを果たすことにつながっている。

事業内容	<p>平成 30 年度 持続可能な開発目標 (SDGs) を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業に採択され、学びを通じた人材育成、まちづくりに取り組んだ。具体的には、①「水島の学び」体験の機会が限られる、②商店街など地域活力が低下している、③若者の地域定着率が上がらない、の3つの地域課題の同時解決を目指して、水島地域内の宿泊施設のリスト化、滞在型環境学習プログラムの実践と検証、SDGs 推進のためのシンポジウムなどを行った。</p> <p>2017 年度より「地域 ESD 活動推進拠点」の指定を受けており、地域における ESD 活動の支援を行うと同時に、東京で開催されたフォーラムで情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省中四国事務所との打合せ (6/14、12/27) ・EPO ちゅうごく岩見氏と打ち合わせ ・環境省同時解決事業 地域連絡会 (7/23、1/18) ・全国キックオフ会議に参加 (8/7) ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアムモデルツアー (まちづくり編：岡山大学との連携) 実施 (8/8～10) ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアムモデルツアー (海編) 実施 (11/24～25) ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアム シンポジウム～G7 教育大臣会合"倉敷宣言"を踏ま
------	--

	えてSDGsを展開する～」開催（12/17） <ul style="list-style-type: none"> ・水島地域内における宿泊施設のリスト化とヒアリング調査 ・既存のリノベーション施設（水島家守舎 NAdia “ゆとろぎ館”）を活用した環境学習の実践と効果の検証 ・全国 ESD フォーラム in 東京 2018（11/30）に参加、パネル展示による情報発信、交流
--	--

③たより、年次報告書の定期発行、内容の充実

その時々における、みずしま財団の活動や、トピックスを分かりやすく紹介し、賛助会員に情報発信を行うことができた。

事業内容	みずしま財団の活動を広く一般に周知し、活動への理解を広げることを目的に、広報紙「みずしま財団たより」を年4回（91～94号）発行した。毎号、特集記事として、当財団の事業をピックアップして紹介し、活動内容を分かりやすく紹介した。評議員会での提案をもとに、92号より評議員による書籍の紹介コーナーを設けた。1月には年賀状を発行し、年始のあいさつと温暖化防止シンポジウム（1/27）の広報を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・みずしま財団たより：No.91（5月）、92号（8月）、93号（11月）、94号（3月）を発行した。
-------------	--

④HP、SNS、マスメディア等による情報発信の充実

広報ツールを活用した広報・宣伝等を行ったが、モデルツアー（11/24-25）の参加者が当初予定を大幅に下回るなど、関心のある層にきちんと情報が届いていないなど、広報の課題が改めて認識された。今後、広報委員会を立ち上げるなど、課題の検討を進めていく。

事業内容	みずしま財団の活動を周知するため、FM くらしき「みずしま財団エコらぼ Friday」（毎週金曜日）、ブログ、facebook 等による情報発信を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・FM くらしき「みずしま財団エコらぼ Friday」毎週金曜 15:45～16:00 ・ソーシャルメディア（ブログ、facebook 等）効果的な情報発信を目指した。
-------------	---

（3）「滞在型環境学習プログラム」の実施と保健活動等支援事業

①滞在型環境学習プログラムの実現に向けたモデルツアーの実施

環境学習分野では、「コンビナート地域における地域と企業の協働体制を強化し、環境学習を通じた持続可能な地域づくりモデル事業」（地球環境基金助成金事業）として、水島コンビナートと地域をつなぐ取り組み、企業の CSR（SDGs）に関するアンケート、水島学講座、滞在型環境学習モデルツアーなどを実施した。

地球環境基金事業は、助成事業のため、人件費が取れず、大幅な支出超過となった。

協議会の取り組みを継続するとともに、平成 29 年度に立ち上げたコンソーシアムについては、体制づくりやプログラム内容の充実に向けて実績を積み重ねることができた。

事業内容	2013 年 8 月に立ち上げた「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」の取り組みを継続するとともに、2018 年 3 月に立ち上げた「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」の体制づくり、モデルプログラムの検討、実践、検証を進めた。協議会の取り組みとしては、水島コンビナートと地域をつなぐ取り組み、企業の CSR（SDGs）に関するアンケート、水島学講座、滞在型環境学習モデルツアー、「みずしまスタイル」の発行などを実施した。コンソーシアムは、体制について主に話し合う「体制づくり検討会」と、プログラム内容自体の精査をする「プログ
-------------	--

	<p>ラム検討委員会」を積み重ね、今後の方向性や、具体的なモデルツアープログラム案などについて議論を行った。</p> <p>地球環境基金助成事業として取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアム体制づくり検討会（5/22、6/28、8/20、10/25、1/17、2/20） ・第1回 水島学講座（国際編）開催（ライデン大学留学生の研修受け入れと連携 5/23） ・プログラム検討会（7/23） ・第19回 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会（6/18） ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアムモデルツアー（まちづくり編：岡山大学との連携）実施（8/8～10） ・企業のCSR（SDGs）に関するアンケートの実施（8月） ・第2回 水島学講座（国際編）「エネルギーから、みずしまと世界のつながりを学ぶ」開催（8/16） ・水島コンビナートをもっと知ろう！環境学習ツアー開催（8/21） ・セミナー「持続可能な地域づくりに向けた若者の学び」（教育旅行勉強会として開催 9/29） ・第7回 水島学講座（歴史編）水島コンビナートを海から見よう！ ～コンビナートクルーズ～ 開催（10/24） ・第8回 水島学講座（歴史編）水島臨海鉄道について 開催（11/17） ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアムモデルツアー（海編）実施（11/24～25） ・地球環境基金助成活動報告会（東京）に参加、報告（12/7） ・第9回 水島学講座（歴史編）水島地域の成り立ちと亀島山地下工場 開催（12/8） ・小学校向け出前授業検討会を開催（2/6）し、「水島出前教室」案内チラシを作成した ・第3回 水島学講座（国際編）私からはじめる国際貢献 開催（2/10） ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアム 総会（3/11） ・みずしまスタイル（7～9号）を発行し、地域の企業（130社）、市内小学校（60校）、水島地区の町内会（150部）に配布し、情報発信を行った ・「みずしま滞在型環境学習コンソーシアムプログラム集」の作成
--	---

②小・中・高・大学、生涯学習等 講師派遣

水島における環境学習プログラム（①大学生向け ②留学生向け ③医学生向け）を実践し、その中で得られた事項を検証するなど、レベルアップを目指した。

昨年までは、研究員2名が、岡山大学非常勤講師として授業を担当していたが、今年度はそれが無くなったこともあり、大幅な減収となった。講師派遣回数も、前年度より減少しているが、水島地域内の小学校向け出前講座の案内チラシを作成したり（3-①）、フードマイレージ買い物ゲームは、指導者養成に協力するなど、今後の展開につながる取り組みを進めることができた。

<p>事業内容</p>	<p>高校・大学の授業や、公民館の講座等へ財団研究員を講師として派遣し、環境学習を提供した。市民や学生など多様な世代が学ぶ機会を増やすことができた。フードマイレージ買い物ゲーム講座は、環境学習センターアスエコと連携して指導者養成講座を開催し、講座修了生が講師として指導できる仕組みづくりに協力した。</p> <p>以下のテーマを中心に23回の講師派遣を行った。</p> <p>*暮らしと環境・社会とのつながり（かんきょうひろば出前授業として） 「食と環境と交通を考える ～フードマイレージ買い物ゲームを通じて～」</p>
--------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・吉備国際大学 (6/23) ・津島小学校 (6/25、27) ・庭瀬・学童保育 NPO (7/26) ・久世公民館・真庭市環境課 (8/8) ・高梁・学童保育 (8/21) ・鹿田小図書館 (8/22) ・第五福田小学校 (9/14) ・岡山市立可知小学校 (10/30) ・フードマイレージ買い物ゲーム指導者講習会 (アスエコ 10/31) ・おかやま希望学園 (11/14) 講師補助 <p>*水島の地域開発と公害の歴史、環境再生の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山大学 (5/28) ・岡山理科大学 環境政策講座 (6/27) ・岡山大学実践型社会連携授業 (7/11) ・水島小学校出前授業 (1/24) <p>*環境再生・まちづくり</p> <p>「八間川」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水島小学校出前授業 (7/11) <p>*「環境・まちづくりで働くということ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者のための環境ミーティング (かいわれの会) (7/15) ・岡山県立倉敷南高等学校ラーニングカフェ (9/19) ・だっぴ (教えて、先輩！自然・環境×地域、主催倉敷市) (2/3) <p>*海関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新見市環境衛生協議会総会 (7/3) ・岡山大学 第1回SDGsサイエンスカフェ (8/20) ・平成30年度 環境・防災地域実践高校生サミット (9/1) ・アスエコ2018 秋のスペシャルイベント (10/13)
--	---

③大学・企業向け視察研修

持続可能な社会づくりに向けた学びの提供を進めることができた。社会人向けの研修受け入れが、増えてきている。滞在型環境学習モデルツアーを実施することで、プログラム内容等についての検証を行うことができた。

事業内容	<p>倉敷医療生活協同組合新入職員研修、川崎医科大学見学実習、水島エコツアー、岡山大学グローバルパートナーズ研修に加えて、山陽新聞社や製薬会社の企業研修などの受け入れがあった。合計9件でのべ275名が水島に学びに訪れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉敷医療生協新入職員研修の受入 (4/3) 37名 ・川崎医科大学見学実習 (4/11、4/25、5/16、5/30、6/20) 120名 ・山陽新聞社新入職員研修の受入 (4/20) 7名 ・岡山大学グローバルパートナーズ留学生 (オランダ) (5/23) 24名 ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアムモデルツアー (8/8～10) 24名 ・倉敷市立南中学校チャレンジワーク受け入れ (9/5～6) 3名 ・参天グループ従業員組合、昭和薬品化工・あゆみ支部の研修 (9/14) 12名
-------------	---

<ul style="list-style-type: none"> ・みずしま滞在型環境学習コンソーシアムモデルツアー（11/24~25） 3名 ・岡山県民主医療機関連合会職員初期研修（1/19） 45名

④人々が健康的に暮らせる地域づくり事業

- ・ COPD（慢性閉塞性肺疾患）の早期発見・治療を目指す地域連携のしくみづくり

COPD と呼吸リハビリテーションの普及啓発を目指した、地域内の健康展などでの肺年齢測定、医療従事者向け COPD 講習会、フライングディスク講習会などを医療関係者、行政との連携で進めた。

環境再生保健機構の予防事業の最終年度として、これまでの取組を継続し、地域連携による COPD 対策の取り組みを進めることで、地域の認知度を上げることができた。

- ・災害支援は、年度途中で助成事業として新たに事業化し西日本豪雨災害に対して、避難者の支援を行うとともに、復興に向けた地域づくりの取組を行った。

事業内容	<p>（独）環境再生保全機構の予防事業として（公財）あおぞら財団が実施する「地域における COPD 対策推進事業」の倉敷分科会として取り組んだ。</p> <p>2年間の事業の最終年度にあたる本年度は、COPD の地域における予防と早期発見を目指した取組を医師会、保健所、医療機関等と連携して取り組んだ。またミニ健康展で、肺年齢測定で要精査が必要な方向けに医療機関の受診を勧め、受診についての追跡調査、患者向けにフライングディスク講座の実施等を行った。</p> <p>7月に発生した西日本豪雨災害に関連して、水島地域への避難者の支援を行った。復興に向けた健康面からの地域づくりを学ぶ講演会を開催し、報告書を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉敷分科会（くらしき COPD ネットワーク）運営（5/10、10/3、2/4） ・COPD 検討会（全体会 大阪）に参加（2/5） ・医療従事者向け COPD 講習会実施 年2回（10/11、10/27） ・ミニ健康展でのハイチェッカーによる肺年齢測定（5/27、6/17、6/18、8/30、9/20、9/28、9/29、10/28、11/14、11/16） ・患者・市民向け COPD 講習会実施 年4回 愛育委員会定例会での講演（4/25、） 在宅酸素患者・COPD 患者向けフライングディスク体験（11/11 2回） ・呼吸リハ啓発パネル 展示（於水島支所 12/10~21） ・講演会「復興に向けた健康づくりと地域づくり」（11/22）開催、報告書作成 ※ももたろう基金助成事業として実施 <p>6/22 茶屋町在宅診療所ヒアリング 6/27 電話相談、倉敷市保健医療センター居宅事業所総轄センター長（7/2 ヒアリング） 2/22 予防事業連絡会（東京）に参加</p>
-------------	--

3. 法人の運営について

財産運用益及び会費・寄付金収入

基本財産運用益 208,362 円、特定資産運用益は 990,000 円となった。今年度は、個人会員 109 名、団体会員 24 団体、法人会員 15 法人。昨年度の賛助会費収入の 1,140,000 円に対して、今年度の収入は 1,017,000 円となった。受取寄附金は、50,230,393 円であった。（みなと公害患者と家族の会から 50,000,000 円の寄附があった）

組織ほか

機関会議

理事会（6/3、6/17、7/21、10/21、2/3、3/3）

評議員会（6/17、3/24）

監査

平成 29 年度監査を 5/25 に行った。

事務局会議（拡大事務局会議）

毎週金曜日の 11:00～12:00 で事務局会議を開催した。月に 1 回理事、協力者が参加する拡大事務局会議を開催した。